

## スイスの幼児教育

西 本 脩

スイス連邦は二五の県(カントン)または半県から成っており、各県は、それぞれ公教育制度の責任を負った多くの国のようになっていきます。その結果、スイスの学校は、その精神では著しい一致を示しているにもかかわらず、その形態と方法とは著しい多様性を示しています。このような小学校の特徴は、また、幼児教育の組織においても見られます。

### 施設の種別

いくつかの県では、幼児学級(インファント・クラス)か幼児学校(インファント・スクール)、幼稚園、託児所、保育学級(ナースリー・クラス)などで行なわれる準備教育または、就学前教育に対して、法律を留意しています。けれども、これらの施設を設立するために、市町村または私立の発案に任されるのが、より普通で

す。

幼児教育施設があってもなくても、子どもは法律で決められた年齢になるまで、小学校へ通うことを許されません。

### 組織・財政・管理

公立の施設は、国または市町村が、ときにはこの両者が設立し、融資します。少しの県では、幼児教育の責任が、全く私立の発案に任されています。

私立の施設は、教会・財団・慈善団体・会社・または個人によって開設され、ときには公当局から利用できる財政補助金を受けることができます。バーゼルでは、一二の私立施設のうち四か所は、国から年々補助金を受けています。ジュネーブでは、私立学校は助成金を支給されず、託児所だけ公当局から援助を受けてい

ます。

いくつかの県では、私立の幼児教育施設に対しどんな管理も行なっていないませんが、他の県では、このような施設は、校医はもちろん、地方の教育当局によって管理されています。パーゼルでは、国の幼稚園指導主事が、また私立の施設も管理しています。ジュネーブでは、教育計画が幼児学校の婦人視学官によって管理されています。

幼稚園を国が設立している県では、幼児教育を取り扱う特別な課が、教育局のもとに設けられ、専門家による監査が行なわれています。

#### いろいろな特色

幼稚園へ通うことは、随意です。義務教育は、子どもが法律で定められた年令（すなわち、県によって六才か七才）になるまで始めません。

幼児教育施設へはいることを許される普通の年令は、四才またはそれ以上です。いなかでは、子どもは三才から入園を許されません。

幼児教育は、公立の施設では無料です。私立の施設では、親たちは普通寄付のつもりで、少額の代金を払います。

一クラス当たりの幼児の人数は、一五人から三〇人、またはときには四〇人までも、さまざまです。パーゼルでは最大限三五人

に、ジュネーブでは四〇人に定められています。この人数には決してなりません。

#### 教育活動と方法

県の教育局は、公立の幼稚園と幼児学校の活動について、公式の指令をだしています。ジュネーブの規則によると、(二つの幼児学級と小学校の一年生から成っている)予備部門は、「幼児に、社会の中で生活に慣らすような教育を授けます。それは、からだを発達させ、感覚の教育を続け、表現のたてを養い、のちの知的な作業(言語、読み方、書き方、数)に必要な技能を教えます」教育細目は、次のように規定しています。すなわち、習慣形成、感覚教育、母国語、音楽教育、手先の活動、体育です。

特定の教育方法に固執することは、強制的ではありません。パーゼルでは、教育細目は次のようなものを用意しています。すなわち、フレイベル法とモンテッソリ法の適用、手先の自由な活動、リズムの練習による教育です。ジュネーブでは、本来幼児学校の仕事は全くフレイベルの理論に基づいていましたが、オードマル嬢(Miss Audemars)とラファンデル嬢(Miss Lafendel) (メゾン・デ・ブテイ(Maison des Petits))の影響、および教育科学研究所(ジャン・ジャック・ルソー研究所)により行なわれた研究の影響による改革を経ました。

形式的な教授は、幼稚園や幼児学級では許されません。けれど

も、ジュネーブでは、読み方の予備的な仕事が五才半から幼児に与えられます。

### 教える言語

方言を話す地方（おもにドイツ語を話す地域の県）では、幼稚園で使うことは、母国語すなわち方言です。

### 時間割

幼稚園は普通、午前中二時間と、午後二時間ないし三時間開いています。県当局が設立した学級の場合には、関係のある法律上の条項が保育時間を規定しています。

### 研究の中心施設

ジュネーブの教育科学研究所（J・J・ルソー研究所）は、児童心理学と実験教育学とに関係のあるすべての事からについての研究の中心施設です。一九一三年に、この中心施設はメゾン・ド・プティ（Maison des Petits、幼児の家の意味）を開きました。それ以来、これは、学令未満の子どもの教育に関連して実習学校および観察施設として役立っています。また、研究は、いろいろな県の教員養成大学（たとえば、バーゼル養成センター）でも行なわれています。

### 経済生活・労働生活との関係

いろいろな所に、保育学級と「学校台所」が、家庭外で仕事にたずさわっている母親の子どものために用意されています。夏休

みの間子どもたちに使わせるための児童公園はもちろん、これらの保育学級は、婦人団体によって管理されています。ジュネーブでは、時間割は家庭生活の状態をよくくみとり、働く母親の子どもは第一幼児学級へはいるのに優先権を与えられます。

### 家庭との協力

このような協力は、幼児が登下校のとき、しばしば家族の一人に付き添われることから引き起こされ、両親の訪問・母親の夕べ・父母の夕べ・家庭訪問・両親が招かれる学校の催し物や展覧会はもちろん、面接のために決められた時間の結果として強化されます。

### 医学的管理

幼児教育施設に通う子どもは、ふつう校（園）医の観察のもとにおかれます。歯科と医学心理的なサービスが、子どものために用意され、子どもは「学校台所」に近づけ、多くの所では、子どものためにミルクとパンはもちろん、ふつ素の錠剤さえ（ジュネーブでは）配給する準備がされています。

### 安全と輸送

幼児教育施設は普通、地区にもとづいて分布しています。子どもは学校への行き帰りには監督されます。子どもの登録や学校への割り当てのときに、子どもの家のあり場所が考慮されます。公共の輸送機関が使われます。ジュネーブでは、施設の建物がと

きには、アパートの建物の中に取って置かれ、児童公園はこれらの建物のすぐそばに造られます。パーゼルでは、交通安全教育が警察庁の職員によって行なわれます。

### 建物と設備

たいていの場合、すべての学校建築に関連した規定があり、特に幼稚園と幼児学級に適用できるいくつかの必要条件をさししめしています。

なかでも、ジュネーブの県の規則は、「子どもの活動がいろいろな備品の準備を必要としている幼児学校や小学校一年生では、もし教室の面積が規則で決められた基準に合うならば、その形は修正してもよい」と、はっきり書いています。

### 教員の養成

教員は一般に、そのために用意された教員養成大学か、その他の施設で訓練を受けます。

パーゼルでは、この訓練は入学試験のあと四学期（シメスター）（一学年二学期制度の場合）続きます。ジュネーブの幼児学校の教員は、適用される制度と方法を考慮して、小学校の女教師に規定された要件と同じ要件にしたがって訓練されます。その課程は、成熟証明書か一般教育卒業証書を持っている娘に開かれており、三年かかります。

すなわち、(一) 教育実習と代用教員から成る競争学年 (二) 教

育科学研究所の訓練証明書をを得るための一年間の理論研究 (三) 一年間の実際研究と、県の実習学級における授業はもちろん、メゾン・デ・プティにおける方法課程も含んでいます。この課程の第三学年の終わりには、要件を満たした訓練生は、公式の幼児学校教育熟達免許状を受領します。

### 教員の身分

給料も労働時間も、ともに小学校教員とは異なります。上級課程か上級教育実習を受けたあとでだけ、一方の教育段階から他方の教育段階へ変ることができません。

### 幼児教育の発展上の困難点

クラスが幼児を入れ過ぎており、ある親たちには、幼稚園はただ子どもを預かって世話をする所（託児所）だけでなく、教育のための施設であることを納得させることが、なお必要です。なおその上に、建物の敷き地を見つめることのむずかしさが続いています。

幼稚園や幼児学級を設立することは、国のためではないということ、主義として信じているものがなほ多くいます。このようにな人々は一様に、子どもは義務教育が始まる年令になるまで、家族といっしょに置いておくべきだと考えています。

(大阪樟蔭女子大学)